

万葉・宣命・訓点語

『長田夏樹論述集（下）』第25章
(原載：『江上波夫教授古稀記念論集』, 1977年4月)

本論文第1節及び第2節では感情表現と情意の表出について「寄物陳思」、「正述心緒」の歌の例を万葉集から引いて述べ、第3節、第4節ではそれぞれ宣命と訓点資料の表情語について論じている。

第5節「日・朝両語の表情語の対応」に至って朝鮮語への言及がなされる。

最終節である第5節末尾で著者は「中世朝鮮語では形容詞が動詞に *-av/ev-*, *-pe/-py* を付して派生した形をとっているのに、上代日本語ではこれと反対に動詞形が形容詞に接尾語 *-b-* を付した形をとってはいるが、これら日朝両語の表情語構詞法が同じであることを論証し得たものと考えている。つづいてこれら日朝両語の表情語彙が系統論的に同源であることを証明するのであるが、すでに与えられた紙数に達しているので論証は筆者の他論考にゆずりその結論のみを示そう。」としつつ、以下のような表を提示している。

cyrkev-(cyrki-) : tanosibu, **čäl'k-iβ- kəspə-(kəsk-, kis-sev) <*kezxev :kurusibu,
**kulu-ñuβ- kistry-(kisk-) <*kizxyv : uresibu, **gīlñuβ- syrphy-(syrx-, syr-sev-) : <*syrxyv :
kanasibu, **käl'ä-jüβ- pankav-(panki-) : yörököbu, **gwöl'ök-iβ- nuiyspy-(nuiych-) :
kuyasibu, **ñjä-čüβ- ejespy- <*ejecyv : utokusibu, **üdük-üβ- aremtav- : urufasibu,
*uñupa-šiβ-

参照された朝鮮語史資料 15 世紀から 17 世紀に至るハングル資料を中心とするが、李朝英祖代刊行の『謹齋集』所引の高麗朝安軸による「関東別曲」の借字表記資料がさりげなく引かれていることは注目される。 (伊藤英人)